

# 未来にわたって不戦を

## 1 対象学年 小学5年生

## 2 ねらい

戦後70年となる今、子どもたちの中にある「戦争」のイメージは、「自分たちの生活から遠い世界にあるもの」として作りあげられている。「戦争」のイメージについて問いかけたところ、「日本がアメリカと戦争をしていた」「アメリカ軍の飛行機から爆弾を落とされた」など漠然とした回答ばかりで、戦争の悲惨さを痛感している子どもは少ない。このような子どもたちが、戦争について幅広く資料を活用しながら積極的に調べ学習をすすめ、未来にわたって不戦を願うようにしていきたいと考えた。

子どもたちは、社会科の授業で沖縄県について学習した際、沖縄県にはアメリカ軍基地が沖縄本島の18%を占めていることを知った。そして、現在商業誌で取りだたされている基地問題が戦争と大きくかかわっていることに驚き、「戦時中のくらしはどうだったのか」「日本はアメリカ軍からどのような攻撃を受けたのか」など、多くの疑問が生まれた。この疑問をもとに、その時代に生きた人や、身近な地域の戦争について学ぶことで、漠然としてしかとらえていない戦争としっかり向き合えるきっかけとしたい。

本時では、県内に在住している方の戦争体験の記録が記されている読み物資料「焼け跡に立つ虹」を活用して学習をすすめていく。この資料を通して、戦争の悲惨さや残酷さに気付くだけでなく、自分たちが住んでいる豊橋も戦争とは無関係ではないことに気付くことができるようにしたい。そして、資料を読んだ後で自分たちにできる平和宣言を考え、平和についての学習と日常生活とが結びつくようにしたい。

## 3 指導の流れ

### (1) 準備 読み物資料「焼け跡に立つ虹」、ワークシート

読み物資料「焼け跡に立つ虹」

焼夷弾の雨の中を（P.54～P.60）

未来にわたって不戦が続くためには、この地球から戦争がいっさいなくなるよう、一人ひとりが努力することが大事であることを伝える資料

著・出版 愛知県教員組合



### (2) 指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10分	1 戦争体験記から戦争について考える。 ○ 戦争体験記「焼夷弾の雨の中を」を聞く。 ○ 柴田鍬三さんが戦争体験記で伝えたかったことは何か考える。	・ 戦争の悲惨さや残酷さに関心をもつことができるように、戦争体験の記録「焼夷弾の雨の中を」を範読する。

	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦争で多くの人が犠牲になった。</li> <li>・ 平和な世の中が続いてほしい。</li> <li>・ 世の中から戦争がなくなってほしい。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>平和な世の中が続き、戦争がいっさいなくなるよう、一人ひとりが努力することが、戦争でなくなった多くの人をなぐさめることになる。</p> </div>	
<p>5分</p> <p>10分</p>	<p>2 「平和」についてイメージする</p> <p>○ 「平和」と聞いて思い浮かぶ言葉を出し合う。</p> <p>3 平和への誓いを読む</p> <p>○ 今年の広島原爆の日の子ども宣言を読む。</p> <p>○ 読んで感じたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦争についてのイメージを視覚的にとらえることができるように、板書を工夫する。</li> </ul>
<p>15分</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ小学生でも平和のことを考えているんだな。</li> <li>・ 小学生でも、平和のためにできることがありそうだな。</li> </ul> </div> <p>4 「わたしにできる平和宣言」を考える</p> <p>○ 考えをワークシートに記入する。</p> <p>○ ペアトークをする。</p> <p>○ 全体発表をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の命を大切にします。</li> <li>・ 友達を大切にします。</li> <li>・ 自分の言葉づかいや行動を見直します。</li> <li>・ 勉強をがんばります。みんなで助け合います。</li> <li>・ 困っている人がいたら助けます。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表の前に、自分の意見を自信をもって発表することができるように、ペア対話を取り入れる。</li> <li>・ 話し合いが活性化するように、出た意見についてどう思うか問いかける。</li> </ul>
<p>5分</p>	<p>5 振り返りをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本は過去に戦争をしていたということを忘れてはいけないな。</li> <li>・ 戦争を二度と起こさないためにも、自分にできることを考え、やっていきたいな。</li> <li>・ この世の中から戦争がなくなるといいな。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>戦争のことをもっと知り、これからの未来のためにできることを考えていきたいな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のまとめにつながるように平和についての考えをもっている子を意図的に指名する。</li> </ul>

#### 4 実践のまとめ

##### 【戦争体験を聞いて柴田隼三さんが伝えたかったことについて考える場面】

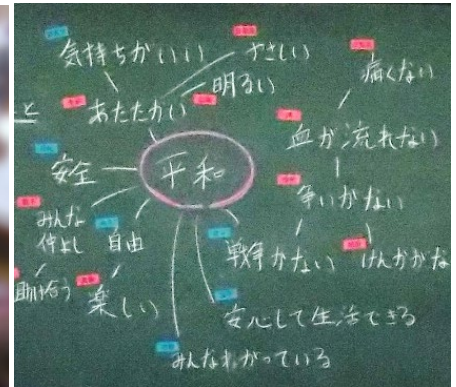
読み物資料「焼夷弾の雨の中を」の全文をコピーしたものを子どもに配付し、教師が範読した。この資料の終わりの部分には、「平和な世の中が長く続き、この地球から戦争がいっさいなくなるよう、一人ひとりが努力することが、戦争でなくなった多くの人をなぐさめることになる。『戦争は一人ひとりの心の中にある』といった言葉もある。戦争は決してやらないといったみなさん方の決心が、世界平和につながると思うのである」といったメッセージは、子どもたちにとって、心に響くものであったと考える。子どもたちが、柴田さんが伝えたかったことについて考え、まとめたワークシートからは、「戦争は二度とやってはいけない」「平和な世の中が続いてほしい」「平和な世の中が続くように努力することが大事」などの言葉が多く見られた。

##### 【平和についてイメージを広げる場面】

子どもの意見を一通り板書した後、平和という言葉に色チョークで下線を引き、「みんなが思う平和ってどんな感じでしょうか」と問いかけた。ワークシートに「平和」という言葉から想像する言葉を自由に書かせた。多くの子が平和から連想する最初の言葉として「戦争がない」「幸せ」などを書いていた。その後の発表では、



【言葉を書く様子】



【子どもたちから出た意見】

「安全」「楽しい」などの意見が出た。また、発表の途中で「今の日本はこんな感じだね」とつぶやく子どももあり、今の日本が平和であることに気付かせることができた。

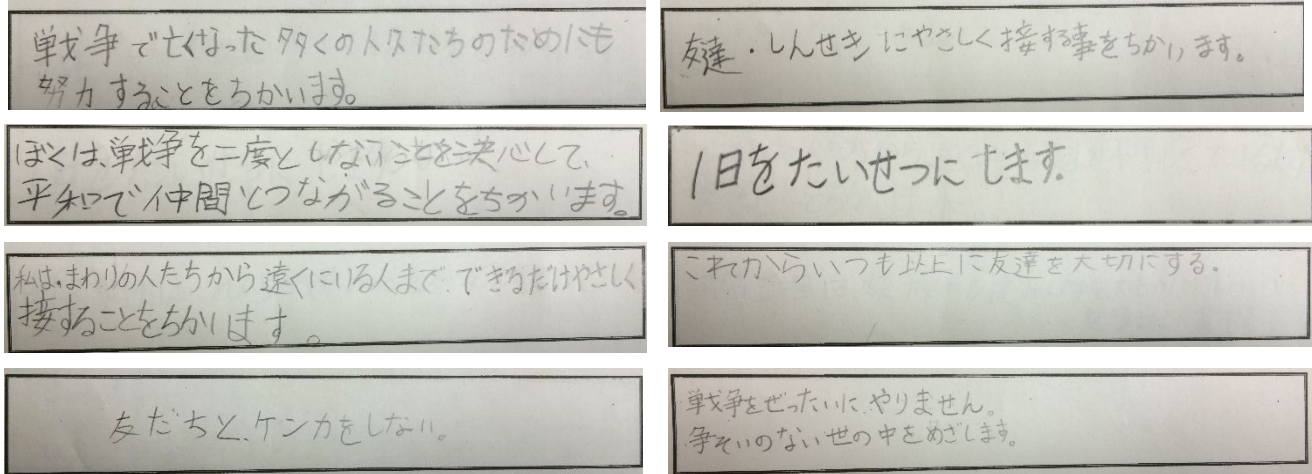
##### 【広島に住む小学生が読んだ平和への誓いについて考える場面】

日本で行われている平和行動の一つに、毎年8月に行われている原水禁広島大会があることを伝えた。本年度は戦後70年という記念の年ということもあり、メディアで多く取り上げられており、子どもたちの多くテレビやインターネットで関連のニュースを見たと言っていた。その日に教師自身も広島に足を運んで、2人の小学生が発表した「平和への誓い」を聞いたことを伝えると、子どもたちは興味を示していた。そこで、2人の小学生が発表した「平和への誓い」の全文をプリントアウトしたものを配付し、教師が読み聞かせた。

その後、同じ小学生でも広島の子が自分たちよりも戦争のことを知り、戦争に対する考えや思いがあることに気付かせるために、「この宣言を聞いてどう思ったでしょうか」と問いかけたところ、「広島の子は戦争の体験の話が語り継がれ、戦争のつらさを知っているのだと思った」「同じ小学生でも僕たちは平和のことについて真剣に考えたことはなかった」などと意見が出された。そこで、「同じ小学生としてみなさんはどうするでしょうか」と問いかけたところ、「何かできることをしたい」という意見が出た。次の平和宣言を考える活動へつなげることができたと考える。

## 【わたしにできる平和宣言について考える場面】

平和のために何かできることはないかを考え、一人ひとりに「平和宣言」としてワークシートに書かせた。発表前に、自分の考えた意見を自信をもって発表することができるように、ペア対話を取り入れた。子どもが記述したワークシートには、「友達・親戚に優しく接することを誓います」や「周りの人たちとできるだけ優しく接することを誓います」など、さまざまな意見が出ており、平和に対しての考えを深めることができた。



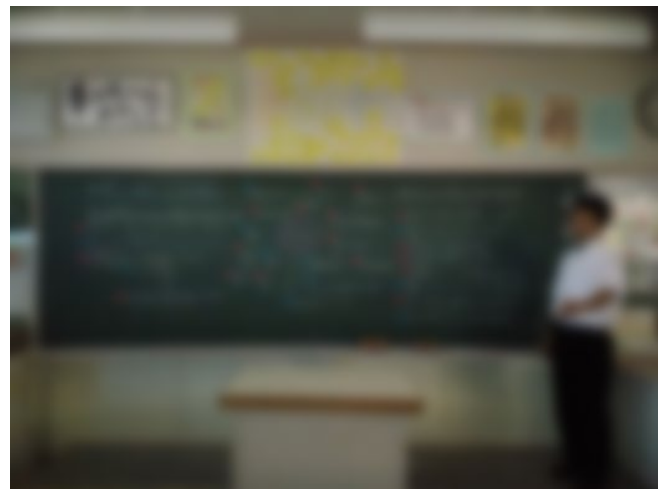
【子どもたちが書いた平和宣言】

## 5 実践の成果と今後の課題

読み物資料「焼夷弾の雨の中」を活用したことで、子どもたちは戦時中のくらしの苦しさや、戦争体験者のメッセージを読み取ることができた。そして、「平和」とは何かを考えたことで、改めて今の日本が平和であること、この平和をこれからも続けていくことの大切さを再認識することができた。

しかし、平和宣言を書く活動では、さまざまな視点からの意見が出たため、まとまりのないまま授業の終わりをむかえてしまった。教師側としては、「戦争のことをもっと知り、それを後世に伝えていかななくてはいけない」「被爆者の思いや願いを背負ってこれから生きていきたい」などという意見を期待していた。そのためには、事前に戦争について詳しく調べる時間や、戦争についての知識を身につけるための事前学習の時間が必要であったのではないかと考える。

本実践を通して子どもたちは、戦争に興味をもち、平和について考えることができた。今後は世界各地で起こっている戦争に目を向け、平和な世界を願う子どもたちを育てていきたい。



【授業での振り返りを発表する場面の様子】

## 2015年8月6日（木） 広島市の小学生が発表した平和への誓い 全文

昨年の8月20日、土砂災害に巻き込まれ、大切な仲間の一人を失いました。  
今まで、当たり前のように一緒に過ごしていた仲間が、突然いなくなるという悲しみを知りました。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分

照りつける太陽の下、一発の原子爆弾が、建物、自然、そして、たくさんの人々の大切な命を奪いました。

この日のことを経験していない私たちですが、大切な人を失う悲しみは、想像することができます。

あの日から70年

今の広島は、色とりどりの花が咲き、緑豊かで、みんな笑顔で過ごすことのできる素敵な街です。

この街で、今、私たちは、平和への思いを感じています。

平和を考えるきっかけは、身近なところにあります。

平和記念公園で見たたくさんの折り鶴

広島平和記念資料館を訪れて知った原子爆弾による被害の事実

悲しみ、苦しみとともに、平和への強い思いが込められた被爆体験者の話

そして、私たちこども代表による「平和への誓い」

祖父母たちが、この70年間ヒロシマを生き抜いて、私たちに命をつないでくれました。

私たちは、今まで受け継がれてきた命と平和への思いを受け止め、考え、自分たちにできることから、「小さな平和」をつくろうとしています。

もう一度、身近な友達、世代の違う人々、様々な国や地域に住む人々と、平和について共に考えてみませんか。

広島に育つ私たちは、

事実を

被爆者の思いや願いを

過去 現在 未来へと

私たちの平和への思いとともにつないでいく一人となることを誓います。

平成27年(2015年)8月6日

こども代表 広島市立白島小学校 6年 桑原 悠露  
広島市立矢野南小学校 6年 細川 友花

# 未来にわたって不戦を

5年 組 番 \_\_\_\_\_

1 柴田鑣三さんが戦争体験の記録で伝えたかったことは何だろう？

---

---

---

---

2 「 \_\_\_\_\_ 」について、思いつくことばを書いてみよう

3 \_\_\_\_\_ にできる \_\_\_\_\_ を書こう

<理由>

---

---

☆ 授業の感想を書こう

---

---

---